

日本NGO連携無償資金協力 完了報告書

| | |
|------------------------|---|
| 1. 基本情報 | |
| (1) 案件名 | カフエ郡における HIV/エイズ対策事業 HIV/AIDS Project in Kafue District |
| (2) 贈与契約締結日 及び事業期間 | ・ 贈与契約締結日：2013年1月11日 ・ 事業期間：2013年1月11日～2014年1月10日 |
| (3) 供与限度額 及び実績（返還額） | ・ 供与限度額：867,790米ドル ・ 総支出：816,274.64米ドル (返還額：51,515.36米ドル、利息0円含む。) |
| (4) 団体名・連絡先、事 業担当者名 | (ア) 団体名：特定非営利活動法人 難民を助ける会 (イ) 電話：03-5423-4511 (ウ) F A X：03-5423-4450 (エ) E-mail：staff@aarjapan.gr.jp (オ) 事業担当者名：加藤亜季子、直江篤志、粟村友美 |
| (5) 事業変更の有無 | 事業変更承認の有無： (ア) 申請日：2013年5月28日 承認日：2013年6月4日 内容：ART 患者情報管理ソフトウェア（スマートケア）操 作技術習得のための研修実施 |

| | |
|--------------|---|
| 2. 事業の概要と成果 | |
| (1) 上位目標の達成度 | <p>チランガ及びカフエタウンの2地域の拠点クリニックにおいて、抗レトロウィルス療法 (Antiretroviral Therapy: ART) センター建設により ART 患者の受診環境を整備するとともに、患者台帳の改善や電子ソフトウェアの活用により ART 患者情報システムの改善を行った。また、服薬支援ボランティアによる患者家庭訪問やグループカウンセリングを実施、ART 患者とその親近者の HIV/エイズとその服薬治療についての知識の向上を図った。その結果、これら2地域において、適切な服薬治療を継続できる ART 患者が増加する支援体制の基礎が構築された。</p> |
| (2) 事業内容 | <p>(ア) ART センターの建設と整備</p> <p>チランガ地域のマウントマクル・クリニック (以下、マウントマクル) 及びカフエタウンのナンゴングウェ・クリニック (以下、ナンゴングウェ) において、それぞれ5月27日、6月10日に ART センターの建設に着工した。着工前、各クリニックを管轄するチランガ郡 (旧カフエ郡) 及びカフエ郡保健局と覚書を締結し、竣工後 ART センターの維持管理・運営責任は両保健局が負うことで合意した。両センターの建設の現場監督は当会駐在員が担い、公共事業省の州技官が定期的に施工状況を確認した。</p> <p>マウントマクルの ART センターは10月7日に、ナンゴングウェの ART センターは10月17日にそれぞれ竣工した。その後、クリニックの機能強化を目的として診察用ベッドや机等の資機材を整備し、11月8日に両郡保健局への譲渡式を執り行い、同日をもって両 ART センターの運営が開始された。</p> <p>(イ) ART 患者情報管理システムの改善と確立 (スマートケアの導入と活用)</p> <p>ART 患者情報の管理状況の調査を実施した。その結果、両クリニックとも手書きの患者カルテに基本情報、診断・治療履歴、次回予約日が記録されているものの、記入漏れや書類不備など、患者情報管理が不徹底であることが分かった。特に、マウントマクルでは電子健康管理記録システムであるスマートケアが導入されておらず、予約日に来院していない患者の最終来院日や来院中断日数を把握できない、また服薬支援ボランティアによる家庭訪問をするにあたり十分な情報がない状況であった。ナンゴングウェでは、スマートケアは導入されているものの、データ入力可能な職員が1名しかおらず、患者来院情報の更新が遅れがちな状況にあることを確認した。</p> <p>そこで、マウントマクルではスマートケアの導入と活用、ナンゴングウェでは複数職員による患者情報入力、活用強化を目指し、7月、両クリニックの職員及び当会現地職員を対象に操作研修を実施した。実施後は研修に参加した当会現地職員がデータ更新頻度の改善や正確な情報入力について実地指導した。スマートケアの導入と活用を進めたことにより、患者照会に迅速化が見られ、クリニックの業務効率化に寄与した。</p> |

(ウ) 服薬支援ボランティアの育成と自立支援

計21名(マウントマクル6名、ナンゴングウェ15名)の服薬支援ボランティアを選出し、計7回のワークショップ(「年間活動計画策定」[5日間]、「HIV/エイズ基礎知識と服薬支援マネジメントシステム」[6日間]、「心理社会カウンセリング」[12日間]、「スマートケア操作技術」[5日間]、「自転車維持管理」[5日間]、「相互家庭訪問を通じた経験共有」[3日]、「年間活動振り返り及び次年度計画策定」[5日間])を開催した。服薬支援ボランティアは、5月に開催した心理社会カウンセリング・ワークショップでART患者との接し方を学んだ。また、自転車維持管理ワークショップ終了後、ボランティアの所属するクリニックに対し、家庭訪問用自転車を供与した。

マウントマクルでは7月より、ナンゴングウェでは5月末より、予約日に来院しなかった患者及び通院が長期間途絶えている患者の家庭訪問を開始した。マウントマクルでは、来院患者を対象としたグループカウンセリングも5月のカウンセリング・ワークショップ受講と同時に開始した。両クリニックの服薬支援ボランティアは定例会を開催しており、各人の活動に関する報告や患者訪問時における課題を共有し、家庭訪問の質の向上に努めた。10月にはマウントマクル、ナンゴングウェ相互のクリニック見学、家庭訪問同行を実施し、両クリニックでのカウンセリング方法や家庭訪問時の工夫点を共有する等、活動の質の向上を図っていることが確認できた。10月末からは、当会で現地職員として採用した心理社会カウンセラーが服薬支援ボランティアの家庭訪問に同行し、実地指導を開始した。いずれのクリニックにおいても家庭訪問を通じ、面会した患者から再来院の約束を取り付けるなど、通院促進に寄与していることも確認できた。

(エ) ART患者及びその家族に対する啓発活動実施

両クリニックに通院するART患者とその親近者を対象に、HIV/エイズの基礎知識や服薬継続、また治療中の栄養摂取等に関するワークショップを計20回(マウントマクル9回、ナンゴングウェ11回)開催し、のべ612名が参加した。また、本ワークショップには各クリニックのART担当看護師や心理社会カウンセラーが参加し、患者や親近者が日常抱えている悩みや疑問に対して助言を行った。クリニックと協働でワークショップを実施することで、クリニックとART患者の相互理解の促進にも寄与した。

| | |
|-------------|---|
| (3) 達成された成果 | <p>(ア) 新設した ART センターは当初の仕様通り、カウンセリングルーム、診察室、患者情報管理室、薬品管理室等を独立して設け、患者のプライバシーにも配慮した構造となっている。①2013年12月から2014年1月にかけて実施した施設使用満足度調査によると、設備(待合室、診察室、カウンセリングルーム)及びサービス(待ち時間、診察時間とその質)ともに、指標の8割を超える9割以上の患者が、5段階評価中「非常に満足」または「満足」と回答し、高い満足度が得られた。</p> <p>②マウントマクルでは、予約患者の69%(1日の予約患者数の記録を開始した2013年7月30日～2014年1月10日)、ナンゴングウェでは82%(スマートケア情報をもとに家庭訪問を開始した2013年6月1日～2014年1月10日)が来院し、2クリックの予約患者と来院患者それぞれ足し合わせて算出すると80%を超える来院率が確認できた。なお、集計の際、患者カルテの紛失や、カルテ番号や来院日時等の記入漏れや転記ミスが散見され、正確な数値の算出に時間を要した。対策として、電子(スマートケア)及び紙媒体(患者カルテ)ともに正確な患者情報の入力、記載を徹底するよう指導を強化するとともに、収集する数値データの簡素化に努めた。</p> <p>(イ) マウントマクルではスマートケアを新規導入し、ナンゴングウェとともにデータ入力可能な職員を増やし、操作技術を向上させるための研修を行った。マウントマクルでは、全ART患者の約40%がスマートケアに新規登録されたが(2014年1月現在)、全患者情報を登録するため、研修を受講した当会職員が実地で入力指導にあっている。また7月より来院時に次回予約日を日程表に記入し、来院患者の予約の有無が一目でわかるようにした。一方、ナンゴングウェにおいてはART患者の約85%の最新来院情報がスマートケア上に登録されたのと同時に、当日の来院患者一覧表に予約の有無をチェックする項目を新たに設け、予約日に来院していない患者数を把握できるよう工夫した。</p> <p>(ウ) ①マウントマクルで6名、ナンゴングウェで15名の合計21名に対して、服薬支援に必要なカウンセリング技術等計7回のワークショップを開催した。マウントマクルにおいては、服薬支援ボランティアが習得した知識や情報を活かして、5月14日よりART患者の待合時間を利用したグループカウンセリングを25回実施した。これによりのべ674名の来院患者が服薬遵守や栄養等にするカウンセリングを受講した。</p> <p>②家庭訪問記録表である「クリニック未訪問記録表」及び「フォローアップ記録表」より、マウントマクルでは119名(予約日に来院していない患者及び長期間通院が途絶えている患者のうち、患者カルテに住所や電話番号等連絡先の記載がある患者の91%)、ナンゴングウェでは324名(予約日に来院していない患者及び長期間通院が途絶えている患者の47%、患者の連絡先の記載有無は考慮せず)に家庭訪問を実施したことを確認した。なおナンゴングウェのデータ算出にあたっては、連絡先の記載がない患者も含</p> |
|-------------|---|

| | |
|-----------|--|
| | <p>めたため指標の 70%を下回った。第 2 期事業においては、来院患者情報を正確に記録するよう、指導に努めている。</p> <p>(エ) ①ART 患者及びその親近者を対象にした HIV/エイズ基礎知識と服薬支援に関するワークショップをマウントマクルで 9 回、ナンゴングウェで 11 回の計 20 回開催し、ART 患者 331 名、親近者 281 名の計 612 名が参加した。②ワークショップ実施後の知識確認テストで、受講者の 9 割以上が 60%以上の正答率を獲得し、知識の定着を確認することができた。</p> |
| (4) 持続発展性 | <p>マウントマクルの ART センターは、本事業において独立棟を建設したことにより、従来の「モバイル ART センター」の扱いかから「設置型 ART センター」としての認定を受ける見込みであり、現在郡保健局が認定作業を進めている。この認定を受けることにより、ARV 薬の直接発注や、医学博士の学位を持つ医師の配置が可能となる。また、ART 患者の診察日が ART センター竣工前は週 1 回であったが、2014 年 1 月より週 2 回に増えている。今後さらに人員が確保され、ART の診察日が増えれば、さらに多くの患者の受け入れが可能となることが期待できる。</p> <p>本事業終了後いずれのクリニックも、郡保健局の管理、監督の下、ART センターが適切に使用されていることが確認できている。また本事業終了後には郡保健局、クリニック関係者、当会の 3 者会議を開催した。同会議ではマウントマクルで、スタッフの増員やスマートケア用パソコンの補充等を行い、ART サービスの拡充に向けてより一層取り組むことが確認された。ナンゴングウェでは、センター内に整備した水洗便所の使用方法が分からない患者が多く、適切に使用されなかったため、竣工後、故障が相次いだが、正しい使用方法の啓発がクリニック職員により実施され、故障しなくなった。</p> <p>患者情報管理システムについては、両クリニック共にスマートケアの操作ができる職員を育成し、患者の電子登録作業を進める等情報管理体制の土台づくりができた。現在実施中の第 2 期事業においては、スマートケアを活用した情報管理体制の定着を進めている。両クリニックともに、スマートケアの活用を強化することで、患者情報の照会や予約状況の把握が迅速化し、クリニックの業務効率化とサービス向上への寄与が期待できる。</p> <p>両クリニックにおいて組織された服薬支援ボランティアは、ワークショップで習得したカウンセリング技術を活用し、グループカウンセリングを実施する等、家庭訪問のみならず、クリニック内での業務にも自主的に取り組んでいる。本事業終了後もグループとして自助努力のもとで活動継続できるよう、同様の服薬支援ボランティア組織をもつ模範的クリニックを訪問して活動資金捻出のための所得創出活動の様子を学び、また「年間活動振り返り及び次年度計画策定ワークショップ」の中で具体的な所得創出活動のアイデアを出し合う等、早期から持続性を意識した活動に</p> |

| | |
|--|--|
| | <p>取り組んでいる。</p> <p>ART 患者及びその親近者対象のワークショップでは、クリニック職員や服薬支援ボランティアも積極的に関与させ、当会の事業終了後もクリニック主導で同様の啓発活動を継続する体制の地盤作りを行っている。</p> |
|--|--|

| | |
|---------------|-------|
| 3. 事業管理体制、その他 | |
| (1) 特記事項 | 特になし。 |

完了報告書記載日：2014年4月10日
 団体代表者名：特定非営利活動法人 難民を助ける会
 理事長 長（志邨） 有紀枝（印）



【別添書類】

- ① 日本NGO連携無償資金収支表（様式4-a）
- ② 日本NGO連携無償資金使用明細書（様式4-b）
- ③ 外部監査報告書
- ④ 【添付資料1】事業内容、事業の成果に関する写真
- ⑤ 【添付資料2】活動詳細一覧表